研究分科会Ⅰ ②新聞づくり学習（中・高等学校部会）

研究主題	十勝・帯広における新聞制作のとりくみ ～地域で高め合う新聞づくり～	提案者	北海道 音更町立駒場中学校 福留克志

１，はじめに

ここ、十勝・帯広で本格的に新聞づくりにとりくんで早２０年近く。情報発信の一手段として目をつけた「新聞づくり」ではあるが、その制作には実にたくさんの知識や技能、そして知恵や根気、仲間との協力などありとあらゆる要素を駆使されるのである。スタートは、記事を集め、それを紙面に並べていくという、ごく普通のとりくみであったが、年を追うごとに子どもたちはより親しみやすく、より見やすく、より楽しくわかりやすい紙面をめざしてとりくむようになってきた。

ここでは、十勝・帯広地域での今までの新聞づくりの様子を振り返り、これからの展望をしてみたい。

２，新聞づくりのとりくみ概要

新聞づくりに関していえば、十勝・帯広は北海道の中でもとりくみに歴史がある。特に、かべ新聞制作では、パネル大の用紙への紙面づくりが２０年ほど前から本格的にスタートしている。もちろん、小さなとりくみとしてはそれぞれの学校でもっと前からなされていたことはあろうが、十勝・帯広地域全体としてのとりくみになったのは、各学校の新聞の成果を交流・発表する場としての「かべ新聞コンクール」が始まったのがきっかけである。これは、各学校でなされていた実践を広く多くの人に見てもらい、評価・感想を受けながら、次の制作への意欲喚起につなげる機会としてとらえることをねらいとして地元新聞社とのタイアップで実現したものである。

このとりくみは、ねらい通り子どもたちによりよい紙面づくりへに向けてのやる気を刺激した。中学生が制作する新聞として、どのような記事がよいのか、よりわかりやすい文章を書くための秘訣とは何か、取材の方法はどうするのか、見出しのつけ方や効果的で目立たせる手法としての文字のレタリングや地紋の研究、さらに、読みやすさ、読者にやさしいレイアウトの基本など学びたいことや疑問などをたくさんかかえ、それらをひとつひとつ解決しながらオーソドックスでありながら独創的な紙面づくりに向けた挑戦が始まった。

また、各学校では日常活動として生徒会委員会や学級の係活動でＢ４版用紙へ印刷する形の学級新聞や生徒会新聞づくりにとりくむ学校も増えてきて、「学級学校新聞コンクール」をスタート。さらに、文化祭に向けたとりくみとしても取り入れられるようになってきた。

また、組織的にも十勝新聞研究会の発足や十勝中学校文化連盟の創設がその活動の後押しをした。そのような中、各学校からの「新聞づくりの学習の場がほしい」という意見があちこちから噴出。関係機関と協議を重ね、「新聞づくり講習会」を年２回開催することとなった。

３，成果と課題、今後の展望

現在では、かべ新聞コンクールも全道大会を開催するまでに発展。十勝・帯広の各学校の作品は、常に上位に入賞するなど大きな活躍が見られる。今後は、授業時数の確保の観点から、新聞制作の時間確保が課題の一つであり、また、よりよい新聞づくりに向けて必要な力をどのように育んでいくのがよいのかを子どもたちの立場で考えていかなくてはならない。